

「五条吉野地区」において鳥獣害対策等をテーマに講演会を開催

平成28年1月26日、奈良県社会福祉総合センターにおいて、鳥獣害対策等をテーマに国営五条吉野地区営農推進講演会を開催しました。これは、本地区営農推進活動の一環として、奈良県、奈良県果樹研究会等と連携して開催したもので、受益農業者をはじめ、関係機関等約120名の参加がありました。その講演概要を紹介します。

イノシシ、カラス等から果樹を守るためには

山梨県総合農業技術センター環境部 主任研究員 本田 剛 氏

五条吉野地区で深刻化する鳥獣被害への対策をテーマとして、本地区の受益農家等を対象に、山梨県で開発された多獣種対応型侵入防止柵の紹介や、鳥獣の生態に応じた適切な対策のアドバイスをいただきました。



ポイント
1

「獣堀(じゅうべい)くんライト」は効果が高く、安価で設置が簡単

この簡易柵の特徴は、支柱に弾力性のある農業資材（商品名：ダンポール）を利用することです。ダンポールは、ガラス繊維なので電気を通さないため、碍子（がいし、電線と支柱を結合させる絶縁体）の代わりにホームセンターなどで安く購入できる結束バンドで、支柱と電線を固定します。畑を囲むように2.5m 間隔で支柱を地面に突き刺して、電線（ステンレス製の針金でも代用可能）を支柱に結束バンドで止めていくことで電気柵ができます。



獣堀くんライトの設置状況

ポイント
2

獣害を「面」で防ぐ方法、電線は地面に沿って低く張る

電線だけでは、獣が下部の電線と地面の間をすり抜けて中に入る場合の対応策として、4.5mm 目などの防鳥用ネットを畑側に張ります。すると、網が邪魔になって獣が網を破ろうとしたときに電線に触れやすくなります。網を張るのは、獣が電線に触るのを誘発させるためで、効果は大きく高まります。また、電線は、地面に沿って20cmの高さで低く張るよう心がけてください。地面が窪んでいる箇所は注意して低く張ることで、被害の防止効果が格段に高まります。



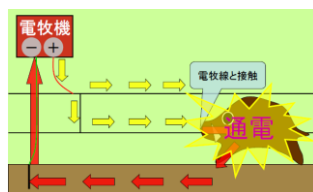
電線の内側に防鳥ネットを張るだけで効果大

ポイント
3

電気柵の特徴と冬場の取り扱い

獣は鼻先で電線に触り、感電すると鼻から足に電気が流れ、全身で感電するので懲りてしまいます。電気柵は、電気が獣の体を流れる時の刺激（感電）により獣にイヤな思いをさせ、この経験が電気柵を嫌う効果（忌避効果）を生まれさせるのが特徴です。

冬の時期は、電気柵の効果を持続させるため、冬にも電気を流すか、電気を流さない場合は、獣に大丈夫だと学習させないために、電気柵を支柱ごと引き抜いて倒しておいてください。



電気柵の原理

ポイント
4

カラスの実用的な対策

ラメ入りの光る防鳥糸よりも、つや消しの黒色ワイヤがカラスの侵入防止に効果が高まります。0.3mm 径の黒色ワイヤを2.5m 間隔で、高さ1.7m に格子状に設置することで、カラス被害を効率的に防止できます。

「獣堀くんライト」の作り方はインターネットで公開されています。

<https://www.pref.yamanashi.jp/sounou-git/documents/light20120711.pdf>

「獣堀くんライト」は、「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」を活用して開発



電気柵を設置する際は、以下の点などにご注意ください。

- ・感電により人に危険を及ぼすおそれがないように、電気柵用電源装置を使用してください。
- ・人が見やすいように「感電注意(かんでんちゅうい)」など危険である旨の表示をしてください。

「亀岡中部地区」において集落営農を テーマに講演会を開催

平成27年12月11日、亀岡市役所市民ホールにおいて、近畿農政局と国営亀岡中部地区推進協議会全体営農委員会の共催で、水田ほ場の大区画化に対応した集落営農をテーマに国営亀岡中部土地改良事業地区営農推進講演会を開催しました。当日は、受益農業者をはじめ、関係機関等約90名の参加がありました。その講演概要を紹介します。

みんなで楽しく集落営農

(農)サンファーム法養寺 理事 上田 栄一 氏

(農)サンファーム法養寺上田理事は、滋賀県甲良町において、平成4年の集落営農組織の立ち上げから今日まで、集落営農を通じて地域農業を継続し、明るく住みやすい村づくりを進めてきました。その経験を踏まえた集落営農の構築・運営のポイントなどを、明快に説明いただきました。



ポイント
1

集落営農の構築

集落内の8割以上の農家が集落営農をやるべきだと考えたなら、全員参加ではなくても集落営農に取り組むことが重要です。平成4年に「損をしない農業をしよう」をスローガンに集落営農を立ち上げましたが、集落営農を行えば、個々で所有する場合の農業機械への投資額を、7分の1程度まで抑えることができます。また、オペレーター賃金は高めに設定するなど、オペレーターが出役しやすい環境を整えることも重要です。



ポイント
2

集落営農の運営

集落営農では、大型高性能機械を導入して作業効率を高めて、いかに少ない人数で大量の仕事を行なうか、手仕事をいかに減らすかも集落営農を成功させるポイントです。そして、トラクターなど農業機械は丁寧に扱い、毎日の清掃やメンテナンスで長持ちさせ、農業機械を壊してしまったら組織が消滅すると強く認識することが重要です。



代かきが終わると、夕方には泥落としを行い、機械はきれいに使用

ポイント
3

営農組合を法人化する

営農組合を継続し、組合員の農作業を丁寧に受託することで、組合員から全作業委託の要望が多くなり、それに応えるために法人化しました。長年の集落営農活動が、集落丸ごと流動化につながりました。

法人化したことで適正な税務処理が行えて、担い手として国等から様々な助成措置が得られます。さらに、集落内で後継者が見つからない場合でも、外部から意欲のある若手を見つけてくれば、後継者として地域農業を継続してくれます。



トマト等の施設栽培を導入し経営を多角化

ポイント
4

現在の農業経営、そして未来へ継承すること

平成21年から施設園芸部門を導入してトマトやイチジクなどの栽培を始め、平成24年には、甲良町集落営農連合協同組合を結成し、甲良町内の7集落営農組織で米の共同販売を行っています。1組織では対応できない農業機械や資材の共同購入も行い、生産費の低減を図っています。

集落営農組織の後継者確保は大きな課題です。私たちの法人は、集落内在住で非農家出身ですが農業をやりたいと意欲の高い農大卒の女性を招くことができました。都会で生活しながら農業にあこがれ、農村を目指す人は多く存在します。その人たちを地域にうまく受け入れていくことが、今後ますます重要になり、私たちの法人の事例は先進的なモデルになると思っています。